



*miho Hatanaka,*

私が携わっている区役所の母子保健事業の中で、また性教育の授業の中で、赤ちゃんに（実際に目の前にして、あるいは妊婦であれば母胎内に、あるいは沐浴実習用の新生児人形として）触れる機会がある。

今回は、保健指導の場での赤ちゃんに纏わる一コマと、一編の詩を。



## 【第2話 赤ちゃんのいる静寂】

ある区役所での事業のひとつに、生後6か月までの乳児とその親を対象としたクラスがある。コロナ禍にあっては参加者を制限した予約制である。昨年度は開催されなかった時期もあったので、「ようこそおいでくださいました」と心の中で思いつつ参加者をお迎えする。大人は感染症対策のため入り口で検温と手指の消毒、顔にはもちろん、大きなマスクである。参加する方たちはそれで済むが、開催者側の者はさらに、フェイスシールドをつけるようにと指示がある。私はメガネをかけているのでマスクだけでも曇って困るが、シールドをつけると自覚的にはまるで頭に金魚鉢でもかぶっているよう！ 話している最中にメガネを直そうとすればシールドに手をぶつけ、結局ずり下がったまま話し続けることになって参加者の方たちにほほえましく見守ってもらっているような具合である。

以前、参加された父親との立ち話でマスクの話になり、「この子たちは産まれた時から周囲の大人たちの顔は半分見えないのが当たり前の中で育つので、お父さん

とお母さんはいっぱい、いい笑顔で、大きな口を見せてあげてくださいね」と言うと、「ああ！ほんとですね！わかりました、いっぱい顔を見せます！」と喜んでくださった。目を合わせることはもちろん大切、でもやはり、口の端がにゅーっと持ち上がって笑顔がつくられるのは、すてきなのである、それが大好きな人であればなおのこと。

さてそんなこんなで始まったある日、当日のキャンセルも1組あって4組の母親と赤ちゃんの参加であった。あかるく、陽のたっぷりと入る部屋で、赤ちゃんたちだけはマスクなし。ふくふくと美しい顔。少し大きな子は持参したおもちゃをしっかりと握り、かじりついたり引っ張ったり。ほぼ同じ月齢であったがやはりこの時期の一か月の差は大きく、体の大小だけではない発達の違いが見て取れて興味深い。赤ちゃんは皆、4人とも穏やかでおっとり、表情がとてもよい。うれしくなる。

たとえ途中で泣いたとしても、私の方は全く気にならないのである、話をしていれば話し続けるだけである。ただそれでも、やはり赤ちゃんがぐずり出すと母親はおろおろとする。「大丈夫ですよ～」と他のスタッフがあやしても、母親としてはなかなかそのように思えないものだという事は理解できる。だから1時間ほどの間、我が子がぐずることなく過ごせるということは、日ごろの生活を離れた“ソーシャルな場”での自信や、母親をほっとさせるものであるようだ。しかしもしぐずったとしても、実際は“なんてことはない”ということも知ってもらえたらいいなあと思う。立ち上がってもいい、抱っこしてあやして、うろうろしても少し部屋を出てもいい、そういった“その子”に適したやり方を母親はそれぞれに徐々に身につけていっているはずで、そのことを家ではない場でも“やってみる”練習だと思って堂々としてもらえたらと思うのだ。この日も、「気になさらずに、その場でおっぱいをあげてもらってもいいですからね」と言いながら話を始めた。

…と！

即答するかのように、『ぶりぶりっ』！ おお、なんと立派な音よ！ひとりの赤ちゃんが悠々と“お応えあそばして”、その場は笑いで一気に和んだ。ありがとう、赤ちゃん。あなたはすばらしい人よ！赤ちゃんは偉いのである。

その後、一通りの話を終えて赤ちゃんとともに行うリラクゼーションのヨーガをした。終始おだやかな空気が流れ、最後の短いメディテーションでは、一瞬ぴたりと、何もかも動きが止まったような静寂。不思議と、このクラスでは毎回、このような時間が訪れる。マタニティのヨーガなど大人だけで行う場合でも稀で貴重なこと、このような時は願っても与えられず、“ただ訪れる”ものである。終了後、ある方がこの時の感じを、「スーっと心が楽になる感じでした」と述べてくださって、「ああ、よかった」と心動かされた。「お母さんやお父さんたちのこれからの日々の、一日のうちのほんの短い時間でも、心の中にどうぞこのような静けさを持てますように」と願う。「この一瞬のために」とも思えるような、よい日であった。

【あかちゃんはえらい】

あかちゃんはえらい。

産まれてきてすぐ、  
だれも教えていないのに、  
おっぱいの飲み方を知っている。

あかちゃんはえらい。

ちいさな手をぎゅっと握りしめて、  
何かをいっしょうけんめいにつかもうとしている。  
ちいさな目をぱちぱちと開いて、  
新しい世界をいっしょうけんめいに見ようとしている。

抱っこしてほしいとき、おなかが空いたとき、ねむたい時、  
あかちゃんは泣きます。そうやって大人に知らせることを 赤ちゃんは知っている。

あかちゃんはえらい。

やがて泣き止んで 「ふんふんふん」 と小さく鼻を鳴らし、  
大きな腕の中で静かに眠ります。



Liquid